

2025年度地震研究所特任研究員の公募について

2025年度採用の地震研究所特任研究員を下記のように公募します。関係する方々にも広くお知らせくださいるようにお願いいたします。

記

1. 職名および人数：特任研究員（特定有期雇用教職員）若干名　ただし女性を1名以上採用する
2. 研究テーマ：別紙「研究テーマ一覧」に記載のいずれかのテーマを対象とする
3. 応募資格：着任時に博士の学位を有する者
4. 契約期間：2025年4月1日以降の着任可能な日～2026年3月31日
5. 更新の有無：更新する場合があり得る。更新する場合には1年ごとに行う。更新は予算の状況・従事している業務の進捗状況・契約期間満了時の業務量・勤務成績・勤務態度・健康状況等を考慮のうえ判断する。ただし、更新回数は1回とし、在職できる期間は2027年3月31日を限度とする。
6. 試用期間：採用された日から6ヶ月間
7. 就業場所：地震研究所（東京都文京区弥生1-1-1）
8. 就業時間：専門業務型裁量労働制により1日7時間45分勤務したものとみなされる。
9. 休日：土・日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）
10. 休暇：年次有給休暇・特別休暇等
11. 賃金等：年俸制を適用し、業績・成果手当を含め月額43万円（予定）・通勤手当（原則55,000円まで）
12. 加入保険：文部科学省共済組合・雇用保険に加入
13. 選考方法：原則として書類選考とするが、面接を行うこともある。
14. 提出書類：
 - (1) 履歴書（東京大学統一書式 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/jobs/r01.html> よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「参考例2（理系教員）」を参照してください。）
 - (2) 研究業績リスト（査読有りと査読なしに分類）
 - (3) 主要論文の別刷り3編（学位論文は要旨のみ）、コピー可
 - (4) 研究歴（A4用紙2枚以内）
 - (5) 採用後の研究計画（A4用紙2枚以内）、応募する研究テーマを明記すること
 - 応募する研究テーマの担当教員と応募前に研究計画について十分に相談して計画をたてる。担当教員の連絡先は別紙「研究テーマ一覧」を参照。
 - 応募時点で東京大学地震研究所に在籍している者（院生等）は、本研究所での研究活動の必要性も記載すること。
 - (6) 応募者について意見を伺える方1～2名の氏名および連絡先
15. 応募締切：2024年11月25日（月）午後5時必着
16. 応募書類提出方法
 - (1) 件名を「地震研究所特任研究員 応募」としたメールを下記の庶務チーム（人事担当）まで

送付してください。担当から書類送付先フォルダの URL を連絡します。

東京大学地震研究所庶務チーム（人事担当）

電子メール : jinji%eri.u-tokyo.ac.jp (%を@に置き換えてください)

電話 : 03-5841-8789

(2) 応募期限までに応募書類一式を所定のフォルダにアップロードしてください。

17. 募集者名称 : 国立大学法人東京大学

18. 公募についての問い合わせ先 :

日本列島モニタリング研究センター 青木 陽介

電子メール : yaoki%eri.u-tokyo.ac.jp (%を@に置き換えてください)

電話 : 03-5841-8283

19. 受動喫煙防止措置の状況 : 敷地内禁煙（屋外に喫煙場所あり）

20. その他

- 取得した個人情報は本人事選考以外の目的には使用しません。
- 「東京大学男女共同参画加速のための宣言（2009.3.3）」に基づき、女性の積極的な応募を歓迎します。
- 外為法の定めにより、採用時点での海外との兼業や外国政府等からの多額の収入がある場合、研究上の技術の共有が制限され、本学教職員としての職務の達成が困難になる可能性があります。このような場合、兼業等については本学における研究上の技術の共有に支障のない範囲に留める必要があります。

研究テーマ一覧

提出書類5の「応募する研究テーマ」については以下一覧から選択してください。

No.	研究テーマ	内容	担当教員（連絡先電子メールアドレス：%を@に置き換えてください）
1	地球内部レオロジー	地殻およびマントルレオロジーに関する実験的研究を行う者。	平賀岳彦 (hiraga%eri.u-tokyo.ac.jp)
2	火山現象のモデリング研究	マグマの発生や気泡・結晶成長、噴煙・溶岩の噴出など火山現象を解析的もしくは数値的手法を用いモデリングする研究者を募集する。特に、新たなモデルや数値計算法の開発にチャレンジすることを求める。大規模シミュレーションのための大型計算機環境を提供する。	鈴木雄治郎 (yujiro%eri.u-tokyo.ac.jp)
3	先進的データ解析による地球電磁気学的現象の解明	地震研究所では電気比抵抗や磁化などの電磁気構造の決定やその時間変化の検出を目指し、MT法など様々な電磁気観測を継続している。しかし、都市部に近く人工ノイズの影響が大きい観測点のデータを解析する際はノイズの影響を効果的に低減できる手法を用いる必要がある。先進的な解析技術を駆使することによって電磁気観測データから地下物質の状態・動態を明らかにする上で重要な情報を抽出できるような人材を雇用したい。	上嶋 誠、臼井嘉哉 (yusui%eri.u-tokyo.ac.jp)
4	1日以下の短い時間スケールにおける断層すべりのダイナミクス	本課題では、数百秒から数日以下の時間帯域における断層すべりの断層すべり過程を、高サンプリング GNSS や通常地震・スロー地震活動の解析を通じて解明することで、断層すべりと固着の間の遷移過程に関する観測知見を得ることを目指す。できればGNSS、少なくとも測地データ解析の経験がある者の応募が望ましいが、そうでない場合も、地震活動や	伊東優治・青木陽介・福田淳一・加藤愛太郎 (yitoh%eri.u-tokyo.ac.jp)

		スロー地震活動の解析に精通している者の応募も歓迎する。	
5	建物応答観測記録を用いた建物の非線形挙動把握に関する研究	地震時の建物の強震観測記録を用いて建物の被災度を即時に判定する技術を確立するため、新しい動的応答評価方法である等価線形化法および連続型および離散型の Wavelet 変換などの時間周波数解析手法に熟知しており、それらを用いて観測記録から有効な振動数成分を取り出す方法の研究を実施できる能力を有するもの	楠 浩一・毎田悠承・鶴岡 弘 (kusunoki%eri.u-tokyo.ac.jp)
6	津波研究	海域で発生する地震・火山噴火・地すべりを起源の津波を研究すると共に、大気波動に駆動される津波、人工衛星合成開口画像を用いた津波研究、津波干渉法を用いた海流計測など、多様な地球観測観測データを用いた、津波研究分野に革新をもたらす、新たな研究を実施する。	綿田辰吾・三反畠修 (watada%eri.u-tokyo.ac.jp)
7	環境地震学: 地震学的手法による地球・火星の表層現象の解明	近年地震波形データだけでなく、水圧・気圧のデータも爆発的に増加し、大気海洋現象起源の地震動が注目されている。本研究グループでは、大気中及び地球・惑星表面プロセス(水床運動・大気海洋現象・地滑り・地下水変動など)を地震学的手法によって解明する環境地震学の創成を目指している。本課題では、地球・火星で観測された大気・海洋起源の地震波を解析し、その励起メカニズムの解明を目的としている。	西田 究 (knishida%eri.u-tokyo.ac.jp)
8	長期的研究継続性視点での蓄積されている海底地震観測データの新たな解析	地震研究所では先進的オフライン海底地震観測を長年実施しており、非公開の試験観測のも含めて膨大な観測データが蓄積されている。これらを新たな切り口で解析する研究者を募集する。その際、本研究分野が今後長期に研究継続できるような人材育成の観点から、これらの観測データがどの様に取得されているのかを積極的に理解し、実際の海底地震観測の	塩原 肇・一瀬建日 (shio%eri.u-tokyo.ac.jp)

		実施にも観測機器の準備段階から携わることも必要条件とする。	
9	衛星測地データを用いたトルコの地殻変動	トルコはユーラシア・アラビア・アフリカプレートが交わる地点にあり、プレート境界である北アナトリア・東アナトリア断層では大地震が発生してきた。我々のグループでは GNSS や合成開口レーダーといった衛星測地技術を用いてプレート境界での応力蓄積過程・大地震による地殻変動やその余効変動を研究し、応力擾乱に対するプレート境界域の地殻・上部マントルの応答について考察する研究者を募集する。	青木陽介・加藤愛太郎 (yaoki%eri.u-tokyo.ac.jp)
10	地震発生物理学	地震発生サイクルシミュレーションや動的破壊シミュレーションを用いて、断層形状、摩擦則、流体、媒質の非弾性などの要素が、断層滑りのダイナミクスに与える影響を調べる。	小澤 創 (sozawa%eri.u-tokyo.ac.jp)
11	素粒子を用いた地球物理学研究	素粒子を用いた地球物理学研究(下記の研究課題のいずれか)の推進に貢献できる研究者を募集する。 1. ミュオグラフィーによる構造探査(火山または断層) 2. ニュートリノを用いた地球深部の構造探査 3. 宇宙線に含まれる電子・陽電子・ガンマ線を用いた浅部構造探査	田中宏幸・武多昭道・宮本成悟 (ht%eri.u-tokyo.ac.jp)
12	P 波前地震重力信号を用いた緊急地震速報の研究	地震発生時に光速で伝播する重力場変動を検知することで、従来よりも早期に地震警報を発信することが可能になる。この実現のためには、リアルタイムでの信号解析が不可欠である。本研究では、重力変動検知による地震速報の社会実装を目指し、現在進行中の高感度重力勾配計の開発と、2 年後に予定されている測定実験の開始を見据えて、理論重力波形モデルの確立および重力場変動観測のデータ解析手法の開発を進める。	亀 伸樹 (kame%eri.u-tokyo.ac.jp)
13	リアルタイム地震学分野	日本全国の地震火山の観測データがリアルタイムに地震研究所へ収集されてい	鶴岡 宏・中川茂樹 (tsuru%eri.u-

	<p>る。また海外の観測データもインターネットを使って容易に入手することが可能となっている。本分野では、それらのデータを用いて地震活動や火山活動などをリアルタイム解析する手法の開発を行い、開発した手法を用いて地震火山現象に関する解析を行う。必要に応じて、リアルタイムデータ集配信システムの開発や新たな観測を行うことも可能である。</p>	tokyo.ac.jp)
--	--	--------------